

第三者委員会・運営懇談会議記録簿		平成30年度下半期		社会福祉法人・春生会	
施設長	兒玉 邦彦	出席者	第三者委員	木島 良子	稲用 敦子
				河野 宏子	司会者
			保育事業部主任	加藤 章子	記録者
			記念事業部主任	愛甲 恵美	
			国富事業部主任	川越 裕子	
			春生事業部主任	中萬 裕美	
				長友 久美子	
開催場所	保育園3F 会議室				
開催日時	平成 31年 2月 1日 (金) 13 時 30 分 ~ 14 時 30 分				
議題					
1. 各部門より(H31.8.7以降の)苦情についての報告					
2. 報告内容についての協議					
各部門報告内容					
乳児保育部	<p>①近隣の方に勘違いされたこと。</p> <p>昨年10月中旬、未満児(1歳児)が園周辺を散歩中に、歩くのが好きでない園児が大きい声で泣き始め、職員が励ましながら一緒に歩いていたが、近隣住民である年配の女性から「泣く子を無理に歩かせる」と、後ろから来た他クラスの職員に注意があった。</p>				
幼児教育部	<p>②利用者アンケートに名指しで不評を頂いた保育士がいて、園長に報告と共に副園長と話を聞いたところ、本人には自覚がなく誤解であることが分かった。</p> <p>③東館2階のお部屋の外廊下で反省を促していたところ、年中男児が足を骨折した。</p> <p>④国富団地内公園での保育士の対応が悪いと市役所の方へ連絡があった。</p>				
記念事業部	<p>希望山荘</p> <p>⑤改築工事の為国富ホーム辻原館に引っ越ししているが、場所が変わったら認知症の症状が進行するのでは?と心配の声が聞かれた。</p> <p>希望楽苑</p> <p>⑥利用者様のご家族と連絡がなかなか取れない。連絡が取れても、こちらの提案に難色を示されて担当者会議が決められなかった。</p>				
国富事業部	<p>国富ホーム</p> <p>⑦9月に主治医より、治療しても治る見込みがないとご家族様へお話があり、ホームで看取りをすることになった。バイタルサインが急に低下し、看護師、主治医、ご家族をお呼びすることが何度も続き、いよいよの時にもご家族が来られると安定するで、ご家族が憤慨された。</p> <p>国富ケアプラン</p> <p>特記事項なし</p>				
春生事業部	<p>春生倶楽部</p> <p>特記事項なし</p> <p>配食サービス</p> <p>特記事項なし</p> <p>ホームヘルプ</p> <p>特記事項なし</p>				
協議内容					
<p>①自力で歩く喜びを知ってもらおうと短い距離を励ましながら歩かせている時の出来事であった。理由はあっても、勘違いをされたことは真摯に受け止め今後の課題にしたい。</p> <p>②本人が誤解を受ける態度を深く反省して気を付けますと返答しています。</p> <p>③担任、東館館長、幼児部主任とご両親宅に伺い、謝罪と状況説明をさせて頂き、その後も通常保育を職員を補助に付けて行っています。</p> <p>④猫の糞を園児が拾った。それをそこに捨てさせて園児の手だけ洗い、糞の片付けをしなかった為、その電話連絡だったんじゃないかと話し合いました。。常識で判断出来なかったことを深く反省しました。</p> <p>⑤間取りも似ていて、職員も利用者さんも変わらないので、特に変化はみられなかった。職員も今まで以上に配慮して対応したい。</p> <p>⑥担当者会議でご家族の思いを全てお話頂き、納得して頂き、今では協力的な発言を頂戴できるようになった。</p> <p>⑦しかし、その後少しづつ呼吸が弱まり最期を迎えられた。せめて呼吸があるうちにご家族に間に合っしてほしいと思つての事でしたが、今後も十分な配慮が必要だと感じてます。</p>					